

3. 令和元年度春季「防音勉強会」 —「防音対策の初歩」—開催報告

一般社団法人日本音響材料協会
(Acoustic Materials Association of Japan)

令和元年度春季「防音勉強会」(講師：日本音響材料協会技術顧問・宮尾健一氏，於：レスポワール市谷会議室)について報告させていただきます。今回も多くの方々に参加して戴きました。

この「防音勉強会」は、「ゼロからのスタート」として、「防音の初歩を会得し、技術情報を理解できる」ように、実務経験50余年の講師が解説するものです。また、受講対象は、建築施工者、建築設計者、防音材営業関係者、建材開発者、音響コンサルタント、ディベロッパー、建築系学生などで、防音の知識を白紙から学びたいビギナーを対象としています。この勉強会をベースとして、「防音」の実務知識の基本を会得したい方々が参加されます。

今回は、建設総合コンサルタント、防音室施工関係者、音響コンサルタント、音響設計者、音響機器メーカー、防音材開発関係者、建材メーカー、製造業研究者、騒音問題研究者など、多彩な分野の方々を受講して下さいました。とくに、最近の特徴として、本勉強会を社員研修の一環とされている、リピーター企業が増加してきたことなどが挙げられます。

講師は、「防音対策の基本事項」、「防音の常識・非常識」などに力を入れていました。

内容としては、わかりやすいパワーポイントにより、各種モデルなどを用い、「デシベル」の特徴を踏まえた「防音対策の常道的な考え方」についての説明をはじめ、「パターン別防音対策の違い」などの事項を、数式によらず、理解しやすいように解説していました。すなわち、意外とわかっていない事項で、よく防音対策を間違える「空気音と固体音」をはじめ、遮音・吸音・制振・防振の基礎知識と防音対策への適用などを実務の見地から説明していました。

履修項目としては、ピアノの防音を例にとった各種防音対策手法、聴感の特徴と騒音計(サウンドレベルメータ)A特性の関係、「低い音」と「低周波音」の意味などについて解説していました。さらに、一般に、手軽な防音対策と誤解されている「アクティブノイズコ

ントロール」について、実際のシステム事例について、その仕組み、効果等について言及していました。

また、とくわかりにくいと言われる「防音関係のグラフ」の見方・意味、周波数別に行う遮音計算などを、実務面からの事例を用い説明していました。

なお、集合住宅において、特にトラブル等の問題が多いとされている「重量床衝撃音」について、測定法・評価法の現状、床構造開発の際の留意点などを平易に説明していました。

「復習の時間」では、履修項目のうち重要な事項を再度解説していました。

「何でも質問の時間」では、下記のように、基本的でかつ肝要な質問を戴きました。Qの例を次に掲げます。これらについては、会員頁Q&Aコーナーに順次掲載してゆく予定です。

[質問事項]

- ・吸音率と遮音性能の関係
- ・床衝撃音対策としての床仕上構法
- ・室内の防音シェルターの仕様、その他

「防音勉強会」は、防音の知識が白紙のビギナーを対象としたものですが、当協会では、毎年「音響基礎講習会(7月予定)」と「技術講習会(11月予定)」を開催しており、これらにもつながる勉強会です。

今後も「防音の初歩を学ぶ場」として、「防音勉強会」(春季、秋季年2回)を開催してゆく予定です。

2019年度秋季は、11月に開催を予定しています。場所等未定(HPに掲載致します)。

